

我が国の高齢化の状況

総人口：12,586万人（29万人減）（R2.9.15現在）
65歳以上：3,617万人≒28.7%（30万人増 前年32）
75歳以上：1,871万人≒14.9%
80歳以上：1,160万人≒9.2%
90歳以上：244万人≒1.9%
100歳以上：80,450人（♀ 70,975人） 91,76人増
（R1.9 71,238人：1,453人増）（H30.9 69,785人：2,014人増）

平成元年時の100歳以上の人数

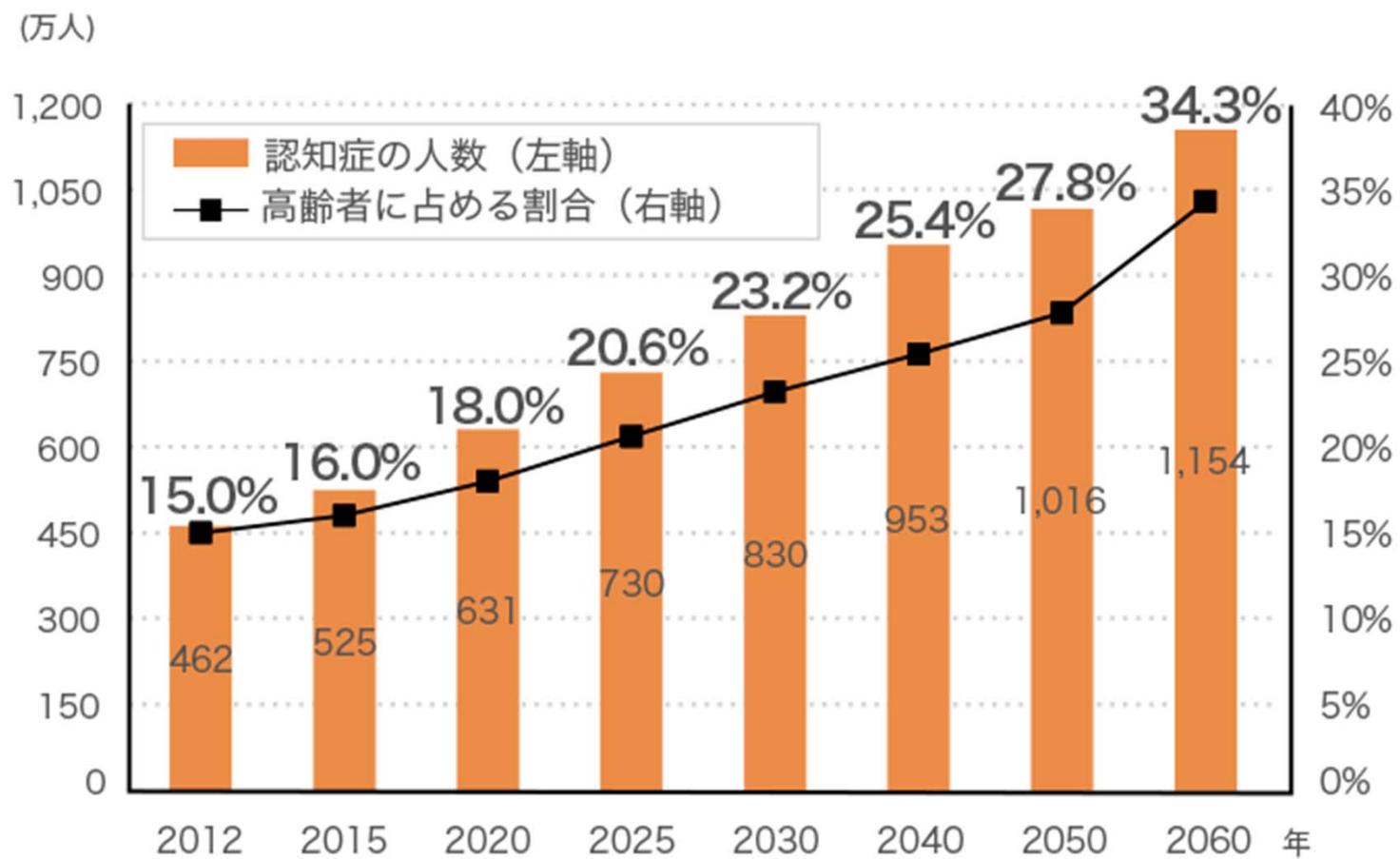
「3,078人」

（男性：630人、女性：2,448人）

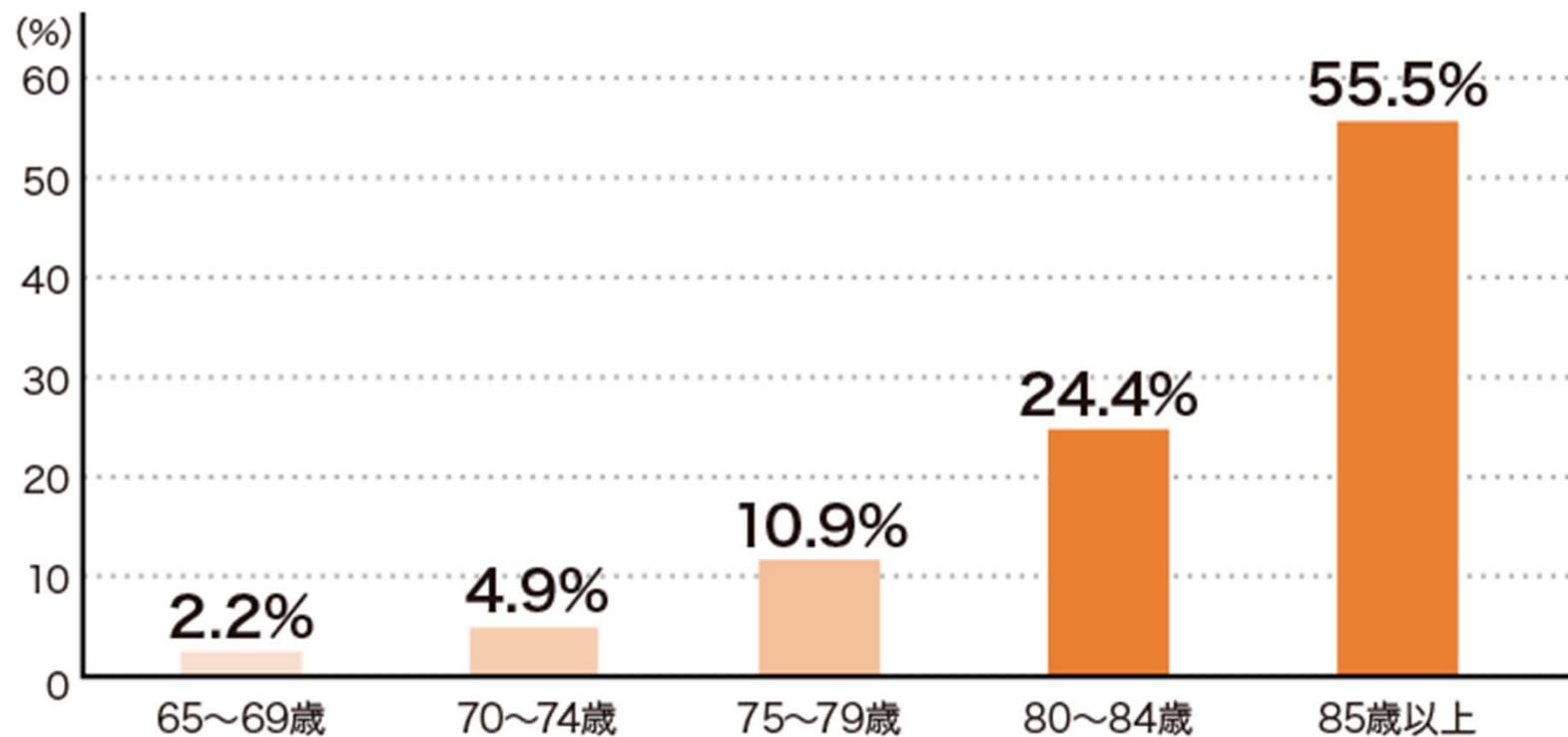
昭和38=153（♂20/♀133）



日本における認知症の人の将来推計



認知症にかかっている方の割合（年齢別）



出典：「日本における認知症の高齢者人口の将来推計に関する研究」（平成26年度厚生労働科学研究費補助金特別研究事業）より算出

日本における高齢者の現状

＜健康寿命とは＞健康で自立して活動し生活できる期間
ヒトがどれだけ健康で豊かに生きられるかを表す指標と言える

「健康で自立して活動し生活できる期間」とは、具体的には、
自力で食事・排泄(はいせつ)・入浴・更衣
・移動などの日常生活動作(ADL: activities of daily living)
)が可能で、かつ認知症などを伴わずに自分の意思によっ
て生活できる期間

日本における高齢者の現状

～押し寄せる超高齢化・長寿社会～

<65歳以上人口比 H15予想>

H15年 19.0% H20年 21.8% H24年 24.1%

H32年 27.8% (H30年28.1%) H62年 35.7% ??

<平均寿命>

(H29年 男性81.09歳 女性87.26歳)

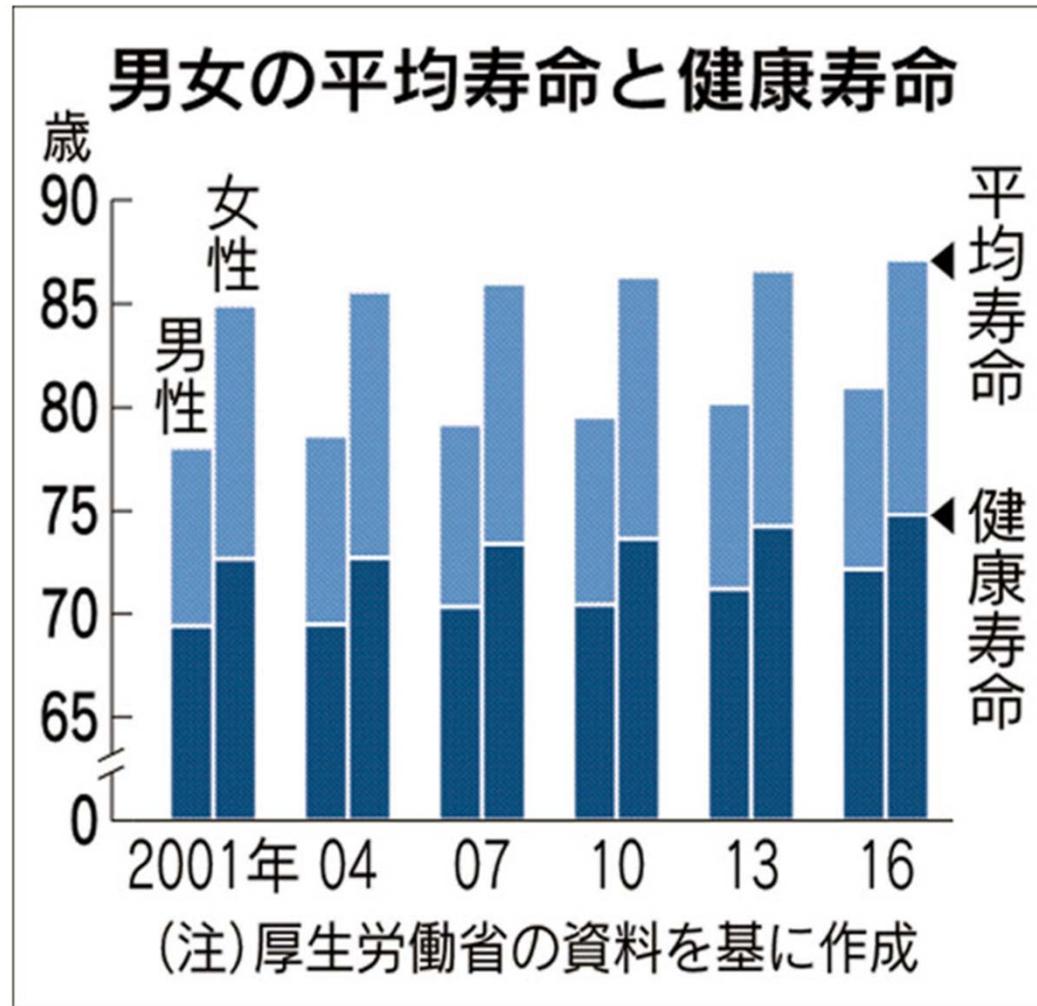
男性は世界3位 女性は世界2位 (1位はどちらも香港)

<健康寿命>

(H28年 男性72.14歳 女性74.81歳)世界2位

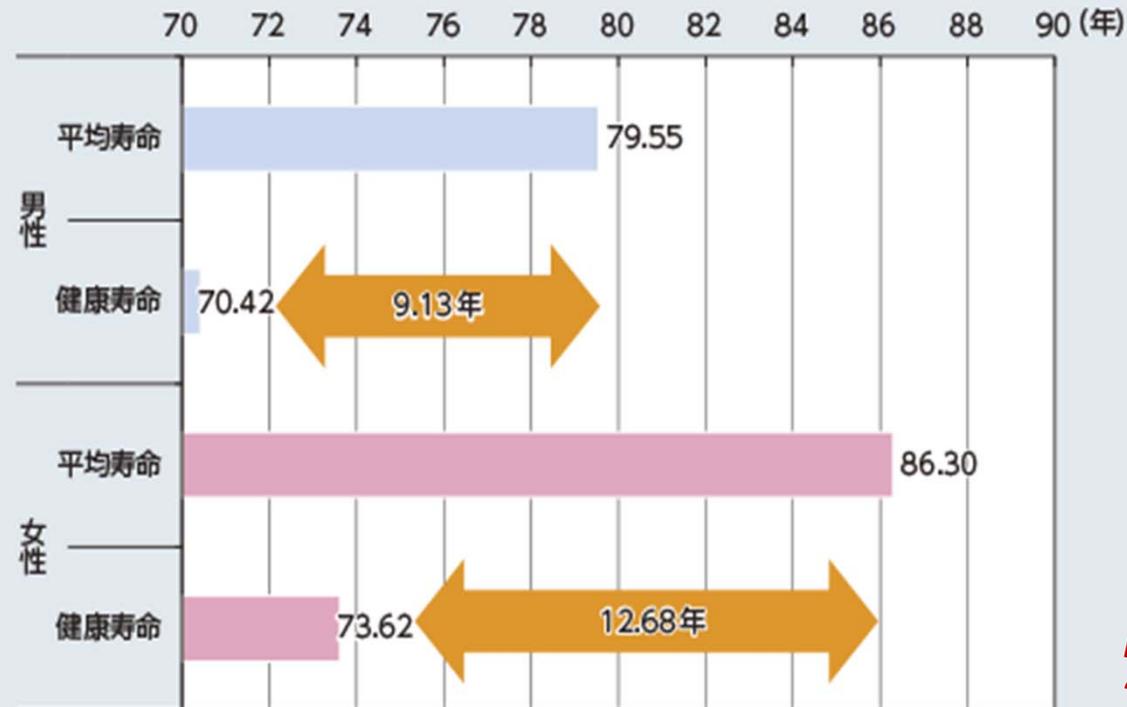
(1位シンガポール)

日本における高齢者の現状



日本における高齢者の現状

健康寿命の定義と平均寿命との差



日本は寝たきり大国？

資料：平均寿命（平成22年）は、厚生労働省大臣官房統計情報部「完全生命表」

健康寿命は（平成22年）は、厚生労働科学研究費補助金「健康寿命における将来予測と生活習慣病対策の費用対効果に関する研究」

（注）：健康寿命：人の寿命において「健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間」

日本における高齢者の現状

今後、平均寿命の延伸とともに、健康な期間だけではなく、**不健康な期間も延びることが予想**されます。

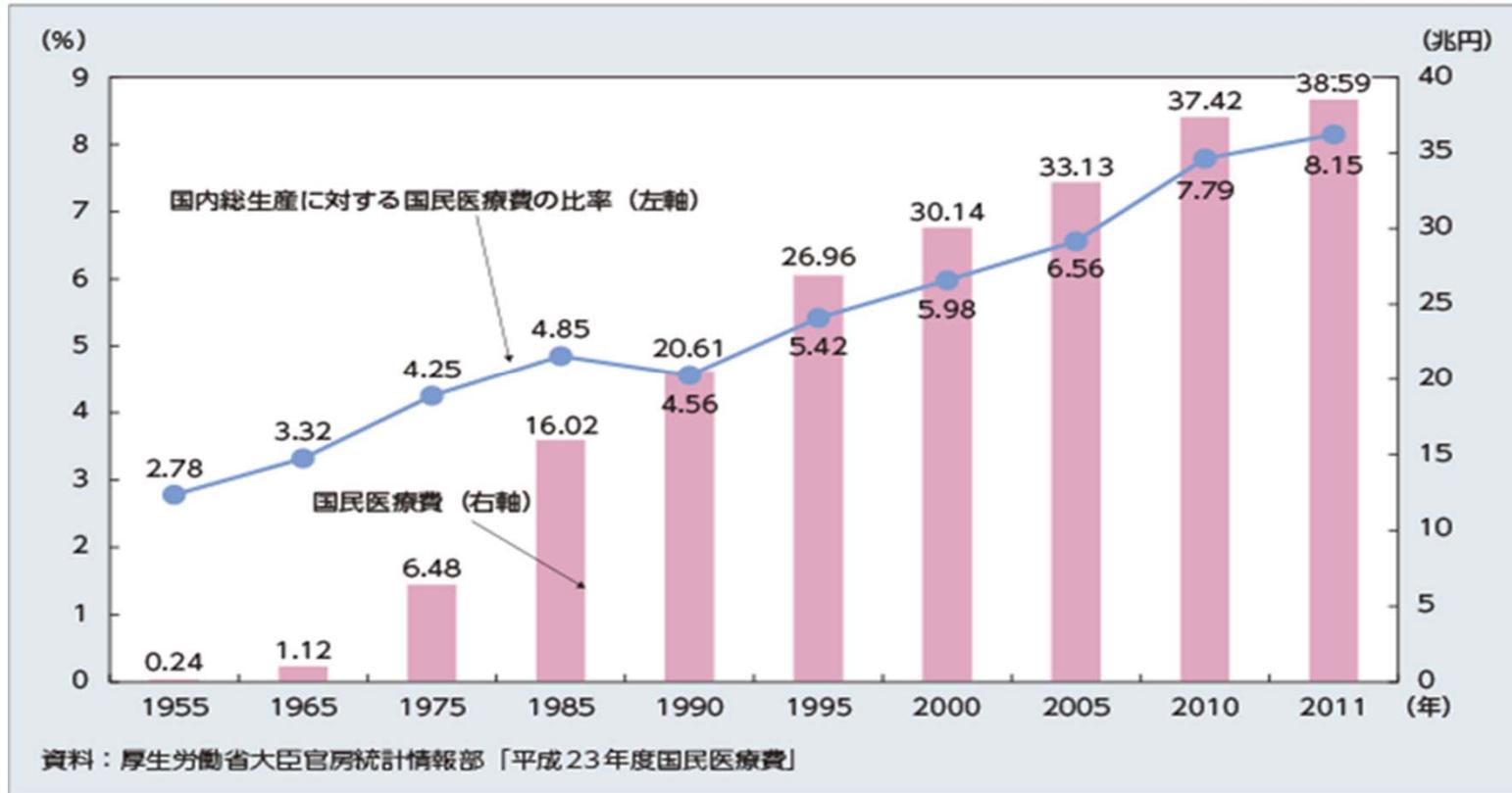
国民の健康づくりの一層の推進を図り、平均寿命の延び以上に**健康寿命を延ばす（不健康な状態になる時点を遅らせる）**ことは、
個人の生活の質の低下を防ぐ観点からも、
社会的負担を軽減する観点からも、**重要**です。

膨らむ医療費



国民医療費の推移

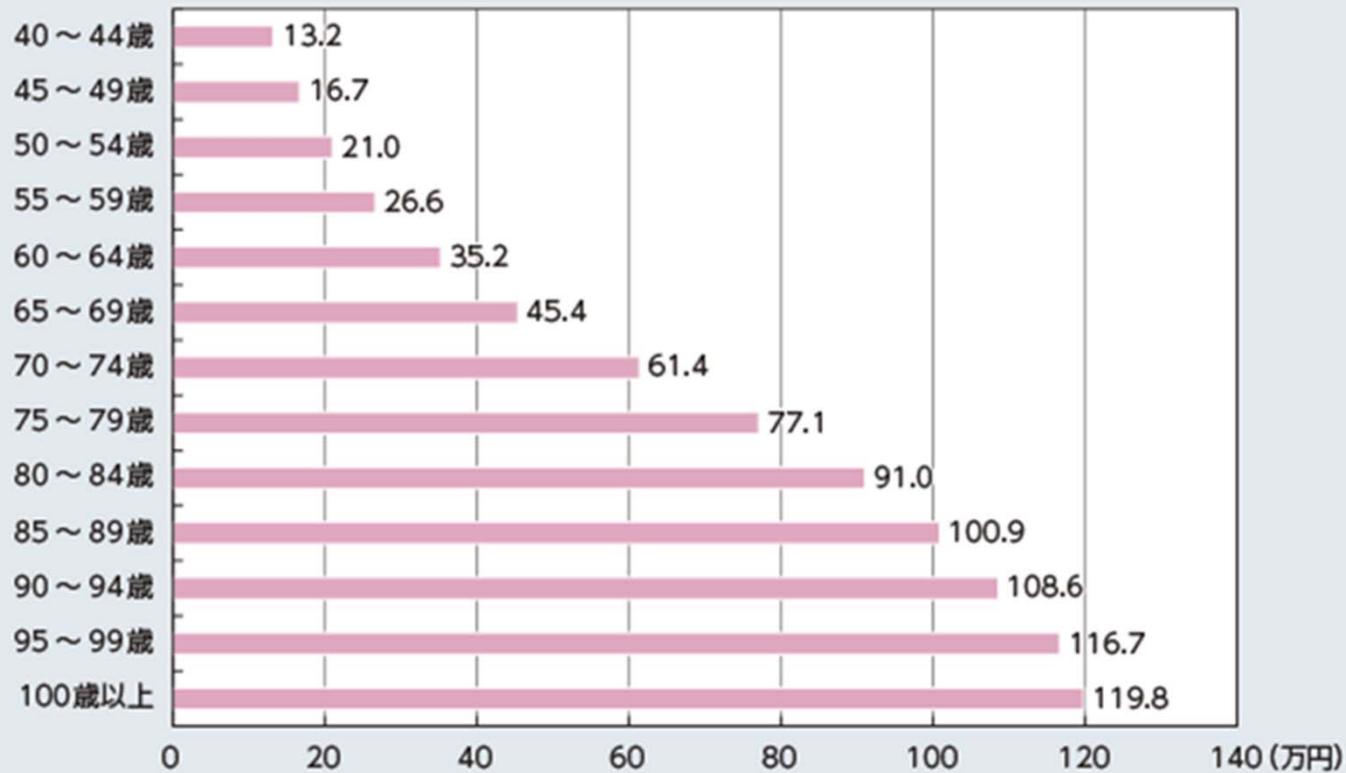
日本における高齢者の現状



厚労省の推計では、社会保障費のうち医療給付費は、2012年度の35.1兆円から、団塊の世代が後期高齢者(75歳以上)となる2025年には54.0兆円に拡大すると指摘。介護給付金(19.8兆円)と合わせると社会保障給付費全体の49.5%を占め、年金(40.6%)を超える規模になると目されています。

日本における高齢者の現状

年齢階級別の1人当たり医療費 (2011年度)



資料：厚生労働省保険局「医療保険に関する基礎資料 ～平成23年度の医療費等の状況～」(平成25年12月)

日本における高齢者の現状



実際、65歳以上の高齢者の一人当たりの年間国民医療費は65歳未満の約4倍という実態(2012年度)もあり、現役世代の負担を縮小するためにも、**健康寿命の延伸は不可欠に。病気になってから治すのではなく、病気にならないようにする「未病対策」が、今後ますます重要になります。**